

コーパスによる類義語研究の可能性：
ドイツ語動詞anfangenとbeginnenを例に

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小野, 友里香, 大藪, 正彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00027273

コーパスによる類義語研究の可能性 ドイツ語動詞 anfangen と beginnen を例に¹

小野 友里香・大藪 正彦

キーワード：類義語，コーパス，頻度，コロケーション

1. はじめに

言語には多くの類義語 (Synonyme / sinnverwandte Wörter) が存在し、母語話者はそれらを無意識的に使い分けることができる。一方、語感のない非母語話者は、辞書などを参照し、意識的に適切な語を選択する必要がある。類義語の理解には、訳語だけではなく、その語の持つ位相や共起語、統語面での特徴なども把握することが重要である。類義語の中には、例えば kennen と wissen のように、意味や用法の相違が比較的明瞭であり、教材や辞書などでの説明の仕方に大きなずれが認められないものがある一方で、そのような明瞭な差異が認められず、容易に置き換えが可能なものもある。本稿で取り上げる、anfangen と beginnen は後者の例である。とりわけそのような類義語は辞書などで十分に説明がなされていないことが多く、学習者に対し、十分な情報が提供されているとは言いがたい状況である。

さて、ドイツ語の動詞 anfangen と beginnen は、ともに「～を始める、～が始まる」という意味を持つ類義語である。いずれも Goethe-Institut のドイツ語検定試験では A 1 レベルに分類されており²、使用頻度が高い動詞であると言える。しかし、一般の独和辞典ではこれらの語の相違には触れないまま、類義語

¹ 本論文は、小野の静岡大学卒業論文「ドイツ語類義語研究——anfangen と beginnen を事例に」(2019年1月提出)に基づいている。本稿の調査・分析はすべて小野が単独で行ったものである。1節、2節、4節は小野の草稿・構想をもとに大藪がまとめ直した。一部データを追加した箇所もある。3節は基本的に小野の手による。全体の文言の調整は大藪が行った。

² Goethe-Institut (2011) の Wortliste を参照。ただし10歳から16歳の児童・青少年向けの検定試験とされている Fit in Deutsch では、anfangen が A1、beginnen が A2 レベルに分類されている。後述するとおり、anfangen に比べ、beginnen がやや文語的であるためではないかと推測される。

ないし同義語として扱われるのがふつうである³。また、後に見るとおり、各種類義語辞典での説明も一貫性が見られない。いずれにせよ、初学者にとってこれらの語の相違を即座に判断することは困難である。本論文では、anfangen と beginnen の類いや相違について、コーパスによる頻度調査やコロケーション分析に基づいて考察し、類義性の高い語の記述に際しては、コーパス分析が有効であることを示したい。

本論文は本節を含め4節から成る。次の第2節では、先行文献におけるanfangen と beginnen についての記述を概観し、問題点を指摘する。第3節ではコーパス分析を行う。まず調査方法および使用するコーパスについて述べたのち、調査結果を報告し、それに基づき2つの語の記述を試みる。第4節は結びである。

2. 辞書における anfangen と beginnen の記述

本節では、anfangen と beginnen の辞書記述について見ていく。まず一般のドイツ語辞典、類義語辞典の記述を概観し、最後に語義の変遷について確認する。

2.1 ドイツ語辞典の記述

Duden Deutsches Universalwörterbuch における anfangen と beginnen の語義記述は次のとおりである（下線は筆者による）。

anfangen

1. a) etw. in Angriff nehmen, mit etw. beginnen
b) eine Ausbildung, eine berufliche Arbeit beginnen
c) zu reden beginnen
d) (ugs.) ein bestimmtes Thema anschneiden
2. a) zu etw. gebrauchen, anstellen
b) machen, tun
3. [mit etw.] einsetzen, beginnen, seinen Anfang nehmen

³ 例えば、『マイスター独和辞典』では、「[始める]の意味でanfangenとbeginnenは同義語で最も一般的」、『クラウン独和辞典』では、「anfangenもbeginnenもともに自動詞『始まる』と他動詞『始める・着手する』の意味ではほぼ同じように用いられる」と記載されている。『アクセス独和辞典』では、それぞれの見出し語のもとに類義語としてもう一方の語が挙げられているのみである。『アポロン独和辞典』には類義語についての言及はない。

beginnen

1. a) mit etw. einsetzen, einen Anfang machen; anfangen
b) auf bestimmte Weise tun, unternehmen, anstellen
2. seinen Anfang haben; zu einer bestimmten Zeit, an einem bestimmten Ort, auf bestimmte Weise anfangen

まず、互いの動詞が定義文に多く含まれていることから、この2語の類義性が見て取れる。両者とも「～を始める」「～が始まる」という他動詞用法、自動詞用法をあわせ持ち、さらに「～をする、行う」という語義を拡張させている。ただし、語義の数から、anfangenの方がbeginnenに比べ、多義性の度合いが高いという点も指摘できる。

一方で、語義の説明に微妙な相違も見られる。他動詞用法「～を始める」という最初の語義において、anfangenではetw. in Angriff nehmen「～に取りかかる、着手する」という説明がなされているのに対し、beginnenではmit etw. einsetzen「(特定の時点において即座に・新たに)始める⁴」という説明がなされている(ただしeinsetzenという語はanfangenの語義3.の説明でも用いられている)。さらに自動詞用法「～が始まる」という語義の説明において、beginnenの方では、zu einer bestimmten Zeit, an einem bestimmten Ort, auf bestimmte Weise「特定の時点に、特定の場所で、特定のやり方で」という補足説明が含まれており、anfangenより意味が限定されている。

2.2 類義語辞典の記述

次に、3冊の類義語辞典を取り上げ、anfangen, beginnenに関する記述を比較する。

『ドイツ語類語辞典』(中條1995:38)

anfangen beginnen, anheben とともに場所、時、動作にも用い、もったも一般的な用語である。[...] 書きことばではden Anfang machen; seinen Anfang nehmenなどあるが、anfangenの方が好ましい。

beginnen どちらかというとき少し改まった用語で、時や動作についてはよく用いられるが場所について用いると雅語的である。[...] der Anfänger (初

⁴ 語義説明はDuden Universalwörterbuchのeinsetzenの項による。

心者) とは言うが Beginner とは言わない。

A Practical Dictionary of German Usage (Beaton 1996: 662)

Anfangen and **beginnen** both mean ‘to begin’, but *anfangen* is the everyday word, while *beginnen* is more formal and more often encountered in the written language. [...]

Schülerduden: Die richtige Wortwahl (Müller 1990: 33)

anfangen, etwas fängt an

etwas hat seinen Anfang; wird wie „beginnen“ und „anheben“ von Vorgängen und Dingen gesagt, die sich über eine gewisse Zeit oder über einen gewissen Raum hin erstrecken [...]

beginnen, etwas beginnt

i.S.v. anfangen [...]

anfangen [etwas]

mit einer Handlung, mit einem Vorhang einsetzen [...]

beginnen [etwas]

i.S.v. anfangen; wird gelegentlich als gehobener Ausdruck für „anfangen“ verwendet [...]

以上の記述を比較すると、anfangenは日常語で、それに比べるとbeginnenは文語的という点ではある程度共通しているが、それぞれが具体的にどのような名詞と結びつくかという点についてはあいまいである。Beatonは両語の違いを使用域の差のみとしているが、一方中條はbeginnenが場所について用いられると雅語的になるとしている。

2.3 語源

最後に、Paulの『ドイツ語辞典』(2002)を参照し、anfangenとbeginnenの語源と意味変化を確認しておく。

anfangen

ahd. *anafāhan* ›beginnen‹. [...] Nach Ausweis anderer germ. Dialekte urspr.

wohl Rechtswort ›angreifen, in Beschlag nehmen; belangen‹ [...], so auch noch fnhd. Eine schon im Mhd. allg. übliche Verwendungsweise haben wir in Fällen wie *er fing es so an, wie soll ich's a.?* [...] wo ↑ *beginnen* nicht passend wäre; [...] Weiter wird es dann zunächst gebraucht, wo es sich um ein tätiges Angreifen, Unternehmen handelt. vgl. *was soll ich (mit ihm) a.?*; *Krieg, eine Arbeit usw. a.*; *er hat angefangen* (den Streit); *er fängt an zu laufen*, wobei die intr. Verwendung von *fangen* [...] zugrunde liegt. Endlich wird es auch von dem Beginn unwillkürlicher Vorgänge gebraucht: *er fängt an zu schwitzen*; *der Baum fängt an zu blühen*; *es fängt an zu regnen*. Darin wird a. nun auch nicht mehr als Zus. [= Zusammensetzung; 筆者注] von *fangen* empfunden. [...]

Dudenの語源辞典(2014)でも同様の変遷が記述されている。簡潔にまとめると、anfangenの語義は次のような順で変化・拡張していった。

- ①「さわる, つかむ, 手に取る」
- ②「取りかかる, 始める」(意図的)
- ③「始める, 始まる」(非意図的)

「手に取る」という行為の意味から派生して、「着手する」という意味になり、最終的には非意図的な開始を表すに至ったというわけである。一方、beginnenの方はどのような状況であろうか。再びPaulの辞書から引用する。

beginnen

ahd. *beginnan*, mhd. *beginnen*, geht auf ein agerm. Wort zurück (got. *du-ginnan*). Von Ad. [= Adelung; 筆者注] 1774 als veraltet bezeichnet, doch weiterhin schriftspr., ugs. dafür *anfangen*. [...]; auch i.S.v. ›tun, anstellen‹ *Was sollst du damit, mit ihm b.?* [...]

語義の変遷や古ゲルマン語における語源については触れられていないが(Dudenの語源辞典では不詳とされている), 文体上の差異や「する, 行う」の意味でも用いられることに言及されている。

2.4 本節のまとめ

従来の辞書の記述から導き出せる anfangen と beginnen のそれぞれの特徴をまとめる。anfangen は、現在は無意識的な行動や出来事の開始に対しても用いられるが、元々の意味は「取りかかる」である。ドイツ語辞典における他動詞用法の説明が *etw. in Angriff nehmen* であることから、現在も「取りかかる」という、意図的に何かを始める意味合いを残していると考えられる。また、日常語、話し言葉として用いられやすい傾向にある。それに対し *beginnen* は、特定の日時、場所、やり方において始まる際に用いられる。それに伴い *anfangen* の持つ「取りかかる」という意味合いはあまり前面に出ず、開始の時間、場所、様態などに焦点が当たりやすい可能性がある。また、複数の辞書において文語的であるという記述も見られる。

一方で、両者の差は極端なものではなく、従って多くの場合交換可能な、極めて類義性の高い語であることも読み取れる。実際のところ、和独辞典で「始める」や「始まる」を引いてみても、*anfangen* と *beginnen* が並列的に挙げられているだけである⁵。

母語話者の直感やインフォーマントテストに基づく従来の類義語研究のレベル——つまり、「言えるか、言えないか」のレベル——にとどまるならば、これが限界であるとも言える。ただし、ドイツ語学習者に対し、実際の使用場面でどちらの語を使うべきかという指針を提供することは、いつかは実現しなければならない課題である。

anfangen / *beginnen* のようなケースで有用となるのは、頻度やコロケーションの情報である。例えば、ある特定の語と用いられる場合、*anfangen* (あるいは *beginnen*) の方が使われやすいという情報があれば、学習者は大いに参考にすることができる。

実は、類義語研究における共起度調査の重要性の指摘は以前からあった（例えば木藤 1978）。しかしながら、大量のデータが扱えなかった時代では、理論を実践に移すことは難しかったわけである。木藤（1978）では、8人の情報提供者に対して、独独辞典から収集した213の例文を用いた「連語可能性テスト」を行うことで、*bekommen*, *erhalten*, *empfangen* の使い分け方を検証している。数多くの類義語を対象に、時間も手間もかかるこのような作業を実践していく

⁵ 例えば『アクセス和独辞典』、『郁文堂和独辞典』、『新コンサイス和独辞典』など。『アクセス和独辞典』の「始める」の項の用例では、「会話を始める *ein Gespräch anfangen* (または *beginnen*)」のように、最初の4例について *anfangen* と *beginnen* が並置されている。

のは、相当な労力を要するものであっただろう。しかし現在では、大規模コーパスとその分析ツールの飛躍的発展により、当時とは比較にならないほどの規模のデータを瞬時に扱えるようになった。

次節では大規模コーパスを用いて、anfangenとbeginnenの使用実態調査を行い、その有用性を確認してみたい。

3. コーパスを用いた頻度・コロケーション調査

井口ほか(2018:51)によると、「母語話者は語を単独ではなく、語と語の慣用的な結びつきであるコロケーションで記憶し、活用していると考えられる」。類義語の意味記述においても、語の単独の意味だけではなく、その語と結びつきやすい共起語の傾向を示すことが、ドイツ語学習者の理解の助けになると考えられる。

先に触れた木藤(1978)では、インフォーマントと作例による「連語可能性テスト」を行うことで、類義語の使い分け方を検証していた。しかし、近年は大規模コーパスを用いることにより、膨大なデータを用いた調査を瞬時に行うことが可能となっている。例えばDWDS⁶のWortprofilでは、頻度20位までの共起語を表示できると同時に、2つの語の共起語の比較を行うことが可能であり、共起語の傾向の違いを容易に把握することができる。

ただし、井口ほか(2018:52)は、コーパスを用いたコロケーション分析の問題点として、語の「結びつきの強さ」と「実際の使用頻度」が必ずしも比例しないこと、コーパスに含まれるテキストの種類に偏りがあることなどを挙げており、「正確で有効なコロケーション分析を行うためには、自動処理や関連ツールを適宜活用しつつ、手作業による確認・調整を加味していく必要がある」としている。この点に留意した上で、今回の調査を行っていく。

3.1 頻度調査

はじめにDWDSのコーパス検索機能を用いて、コーパスごとのanfangenとbeginnenの使用頻度を比較する。DWDSコーパスは複数の個別コーパスから構成されており、検索の際、使用したいコーパスの選択が可能である。また、検索結果画面では、選択しなかった他の個別コーパスにおける語のヒット数も同

⁶ <https://www.dwds.de/>

時に表示されるため、コーパスごとの頻度の比較を容易に行うことができる。

参考までに、ドイツ語の頻度辞典であるJones/Tschirner (2006)では, anfangen が373位, beginnenが239位となっており, 100万語あたりの頻度は, anfangen が219, beginnenが364である。Jones/Tschirnerは独自に作成した420万語から成るコーパスに基づき頻度を出しており, その内訳は, 話し言葉100万語, 文学作品100万語, 新聞100万語, 説明書20万語というものである。語の使用が特定のジャンルに偏る場合は, それぞれの語のもとに補足情報として示されるが, anfangenにもbeginnenにもその情報はない。

次の表にDWDSにおける検索結果を示す⁷。

表1：コーパスごとのanfangen/beginnenの頻度（語数）

コーパス	<i>anfangen</i>	<i>beginnen</i>
DWDS-Kernkorpus (1900-1999)	11261	38242
DWDS-Kernkorpus 21 (2000-2010)	1553	4119
Deutsches Textarchiv (1473-1927)	37153	28532
Berliner Zeitung (1994-2005)	14152	84109
Tagesspiegel (1996-2005)	12628	51208
Die ZEIT (1946-2018)	40763	183699
Blogs	14598	19411
Referenz- und Zeitungskorpora (aggregiert, frei)	113837	389909
Polytechnisches Journal (1820-1931)	4144	9836
Filmuntertitel	20301	10224
Gesprochene Sprache (1900-2001)	498	740
DDR (1949-1990)	953	3139
Politische Reden (1982-2017)	740	3462
合計	272581	826630

DWDS-Kernkorpus⁸, Berliner Zeitung, Tagesspiel, Die Zeit, Polytechnisches Journal, DDRのような書き言葉コーパスではbeginnenがanfangenの頻度を上回る結果となった。WebコーパスであるBlogsでは他のコーパスに比べanfangenの割合がやや高いが, このコーパスは比較的話し言葉的であるためと考えられ

⁷ 用いた検索式は次のとおり (<https://www.dwds.de/d/korpussuche>を参照)。

anfangen: anfangen || "fangen #9 an WITH \$p=PTKVZ"

beginnen: beginnen

⁸ 大衆文学 (28.42%), 新聞 (27.36%), 科学文献 (23.15%), 実用書 (21.05%) から構成されたコーパス。

る。Deutsches Textarchivのみ anfangen の頻度が beginnen よりも高かったが、これは beginnen の語形が18世紀半ばまで統一されていなかったことに起因すると思われる。そして、この中では Filmuntertitel と Gesprochene Sprache が話し言葉コーパスに該当するが、 anfangen が beginnen の頻度を上回ったのは Filmuntertitel のみであった。これは Gesprochene Sprache コーパスに演説や国会議事録のデータが含まれていることも要因だと考えられる。anfangen は話し言葉の中でもより日常的な場面で使われると言えるだろう。

3.2 コロケーション分析

次にIDSのコーパス検索システム COSMAS II⁹ を使用して、 anfangen と beginnen における共起語を分析し、それぞれの語の使用傾向を考察する。今回の調査では W-Archiv der geschriebenen Sprache の W-öffentlich - alle öffentlichen Korpora des Archivs W (mit Neuakquisitionen)¹⁰ を選択し、検索を行った¹¹。検索の結果、 anfangen のデータが662,761件、 beginnen のデータが3,607,976件収集された¹²。

まず、この検索結果を用いてコロケーション分析を行う。分析には、1995年にIDSが公開したコロケーション分析ツールで、COSMAS IIの機能の一つである Kookkurrenzanalyse を利用する¹³。この機能は LLR (Log-Likelihood Ratio 対数尤度比)¹⁴ によって評価された共起語を、共起度順に表示させることが可能である。さらに、典型的な使用例の表示や類似する共起表現のグループ化も行うことができる。なお、今回の調査では、使用頻度の差異が結果に反映されることを防ぐため、収集されたデータからそれぞれ600,000例を抽出し、調査に使用する。また、検索対象は中心語の前後5語以内、1文以内に現れる語とし、機能語は含めないものとした。その他の設定は既定のままとなっている。今回

⁹ <https://www.ids-mannheim.de/cosmas2/>

¹⁰ 総語数約90億の書き言葉コーパス。18世紀から今日までのテキストを収めている。

¹¹ 使用した検索式は以下のとおりである。

anfangen: &anfangen oder (&fangen /+s0 an)

beginnen: &beginnen

¹² 検索の際、現在分詞およびその格変化形は除外した。

¹³ 先に触れた DWDS-Wortprofil を用いるという選択肢もあったが、分析に用いられるデータ数が少なく、また上位20位までの結果しか表示されないことから、類義性が比較的高いと予想される今回の事例には適さないと判断した。なお、Kookkurrenzanalyse による分析の問題点については後に触れる。

¹⁴ LLRの数値が大きいほど中心語との結びつきがより強いと言える。

は共起度上位50位の傾向を比較する。

さて、調査結果をまとめたものが次の表2と表3である。

表2：anfangenの共起語

ランク	共起語	LLR	頻度	ランク	共起語	LLR	頻度
1	erst	43049	20401	26	harmlos	7838	595
2	neu	27849	6615	27	nachzudenken	7692	860
3	habe	27291	19913	28	schreien	6822	911
4	können	27122	13788	29	arbeiten	6597	2032
5	vorne	26548	5473	30	Jetzt	6375	1415
6	Null	23408	3492	31	Ja	6343	3688
7	klein	23264	4247	32	Gut	6133	4410
8	schon	21691	22598	33	singen	6003	1324
9	hatte	20533	13043	34	langsam	5964	1563
10	vorn	20288	3321	35	endlich	5947	2277
11	viel	20082	7213	36	Wann	5868	1190
12	weinen	19750	2239	37	überhaupt	5856	2054
13	mal	18736	6677	38	spielen	5719	1916
14	null	17743	2827	39	brennen	5522	841
15	gar	13848	4503	40	Sagt	5503	3675
16	früh	13734	3070	41	Gerade	5237	2105
17	einmal	12617	6211	42	Leben	5216	3835
18	regnen	12042	1362	43	erinnert	5154	2431
19	dann	11600	12998	44	Weiß	4854	2774
20	aufhört	10776	1436	45	Neues	4851	765
21	Dann	10175	2498	46	studieren	4655	662
22	jetzt	9388	7643	47	erinnerte	4430	1162
23	ganz	9176	4538	48	Neues	4264	420
24	schreiben	8584	1801	49	irgendwann	4263	997
25	richtig	8013	1752	50	wissen	4257	2084

表 3 : beginnenの共起語

ランク	共起語	LLR	頻度	ランク	共起語	LLR	頻度
1	Uhr	167578	62441	26	10	9122	440
2	Karriere	30569	7909	27	Studium	8763	2606
3	Veranstaltung	25247	1095	28	Heute	8448	2109
4	Bau	18954	6493	29	Ausbildung	7546	2173
5	Bauarbeiten	17481	3615	30	Sitzung	7390	676
6	19	17476	723	31	14	7105	510
7	erst	16115	11605	32	Jahr	6831	7853
8	werden	15681	11818	33	Prozess	6794	2196
9	Montag	14969	6556	34	Woche	6550	3484
10	hat	14848	25434	35	18	6470	425
11	19.3	14611	322	36	Kurs	6412	1232
12	Jahren	13543	10611	37	Dienstag	6081	2397
13	Konzert	12492	1099	38	Oktober	6034	2996
14	Samstag	12370	4892	39	Januar	6007	2868
15	20	12222	930	40	August	5876	2918
16	Notdienst	11740	386	41	Donnerstag	5875	2313
17	Laufbahn	11617	2270	42	Tag	5799	3789
18	Arbeiten	11450	3719	43	Mittwoch	5723	2104
19	heute	11448	6477	44	11	5716	203
20	bereits	11416	8673	45	morgen	5667	1232
21	Freitag	11167	4363	46	Fest	5409	609
22	endet	9639	1942	47	Saison	5408	2921
23	Sonntag	9628	4076	48	jeweils	5314	516
24	Dann	9573	2634	49	April	5305	2483
25	September	9307	4596	50	Gottesdienst	4989	624

これらの表から、anfangen, beginnenと結びつきやすい語の大まかな傾向を把握することができる。まず、anfangenの表にはweinenなどの不定詞が50位までに11件見られた（nachzudenkenを含む。またkönnenはのぞく）。これらの語はzu不定詞の形で目的語として現れるものと考えられる。次の表4は、同じ不定詞がbeginnenとどの程度の共起度を示すのか、並べて比較してみたものである。明らかな差異が見て取れる。

表4：anfangen/beginnenと不定詞の共起度の比較

	<i>anfangen</i>			<i>beginnen</i>		
	ランク	LLR	頻度	ランク	LLR	頻度
weinen	12	19750	2239	151	1718	339
regnen	18	12042	1362	69	3855	482
schreiben	24	8584	1801	192	1341	694
nachzudenken	27	7692	860	290	862	199
schreien	28	6822	911	343	730	191
arbeiten	29	6597	2032		該当無し	
singen	33	6003	1324	394	608	337
spielen	38	5719	1916	853	218	425
brennen	39	5522	841	170	1526	328
studieren	46	4655	662	365	686	224
wissen	50	4430	1162		該当無し	

また、上の表2からは、anfangenがneu, null, Null, vorn(e)と強い結びつきを示していることも分かる。次の表5は、これらの語がbeginnenとどの程度の共起度を示すのか、並べて比較してみたものである。

表5：anfangen/beginnenとneu, null, Null, vorn(e)の共起度の比較

	<i>anfangen</i>			<i>beginnen</i>		
	ランク	LLR	頻度	ランク	LLR	頻度
neu	2	27849	6615	182	1386	942
Null	6	23408	3492	341	738	225
null	14	17743	2827	320	781	231
vorne	5	26548	5473	139	1981	688
vorn	10	20288	3321	215	1209	511

いずれの語も、beginnenよりanfangenの方が明らかに高い共起度を示している。この内、Null (null) はbei Null (null)¹⁵、vorn(e)はvon vorn(e)の形で用いられるのが典型であった。中でも最も典型的なシンタグマの例はwieder bei Null [...] anfangen (43%)、wieder|ganz von vorn [...] anfangen (54%)であった。wieder, ganzが用いられていない例を含めれば、bei null, von vornの形で用い

¹⁵ 綴りは新正書法でbei null anfangen, 旧正書法でbei Null anfangen。

られている文の割合はさらに多いと考えられる。このように「新しく、最初から始める」という意味で使われやすいのは、*anfangen*が「取りかかる」という意味を持つことによると推測される。

次に*beginnen*の共起語に注目してみると(表3)、曜日や月など、時を表す語が目立つ。次の表6は、上の表3に含まれるこれらの語と*anfangen*の共起度を並べて比較してみたものである。先の表4、表5よりも共起度の差が顕著に出ているのが分かる。この傾向は、Dudenのドイツ語辞典の記述とも一致する。

表6：anfangen/beginnenと日時を表す語の共起度の比較

	<i>anfangen</i>			<i>beginnen</i>		
	ランク	LLR	頻度	ランク	LLR	頻度
Uhr	999	103	1622	1	167578	62441
Montag	2563	35	181	9	14969	6556
Jahren		該当無し		12	13543	10611
Samstag		該当無し		14	12370	4892
heute	851	125	135	19	11448	6477
Freitag		該当無し		21	11167	4363
Sonntag		該当無し		23	9628	4076
September	941	111	426	25	9307	4596
Jahr	240	552	2842	32	6831	7853
Dienstag		該当無し		37	6081	2397
Oktober	2235	41	217	38	6034	2996
Januar	1482	64	332	39	6007	2868
August	2273	40	213	40	5876	2918
Donnerstag		該当無し		41	5875	2313
Mittwoch		該当無し		43	5723	2104
morgen	271	40	213	45	5667	1232
April		該当無し		49	5305	2483

さらに、*anfangen*の共起語上位50位の中で、開始の対象を表し得る名詞はLebenのみであるのに対し(表2)、*beginnen*では17語が見つかる(表3)。次の表7はこれらの語を並べて比較してみたものである。共起度の差も大きい。

表7：anfangen/beginnenと名詞の共起度の比較

	<i>anfangen</i>			<i>beginnen</i>		
	ランク	LLR	頻度	ランク	LLR	頻度
Leben	42	5216	3835	196	1316	1360
Karriere	153	1017	713	2	30569	7909
Veranstaltung		該当無し		3	25247	1095
Bau	672	165	332	4	18954	6493
Bauarbeiten	648	174	79	5	17481	3615
Konzert		該当無し		13	12492	1099
Notdienst		該当無し		16	11740	386
Laufbahn	526	224	106	17	11617	2270
Arbeiten	429	287	319	18	11450	3719
Studium	80	2656	870	27	8763	2606
Ausbildung	101	1839	1108	29	7546	2173
Sitzung		該当無し		30	7390	676
Prozess		該当無し		33	6794	2196
Woche	393	314	554	34	6550	3484
Tag	301	431	958	42	5799	3789
Fest		該当無し		46	5409	609
Saison	557	208	295	47	5408	2921
Gottesdienst		該当無し		50	4989	624

ここまでの結果から、anfangenとbeginnenの取る名詞（開始の対象を表す名詞）の大まかな傾向を導き出すことができる。まずanfangenは、beginnenと比べて、zu不定詞を伴って、ある「行為」を始めるという状況を表す場合に用いられやすい。また、「取りかかる」という意味を持つことと関連して、「新しく、最初から」何かを始める（何かが始まる）という表現で用いられやすい。一方、beginnenは、時を表す語や具体的な名詞との共起度の高さから、「いつ」始まるか（始めるか）が定まっているイベントや期間の開始を表す表現で用いられやすいと言える。

ただし、Kookkurrenzanalyseを用いての調査は、膨大なデータ量から大まかな傾向を読み取ることができるという点では優れているが、それぞれの共起語がどの格で用いられているのか、前置詞と結びついているのか、また自動詞用法と他動詞用法どちらの用法で用いられやすいのかなど、詳細な分析を行うには不向きである。そこで、先ほどの検索結果から、今度はそれぞれ100例ずつの用例を無作為に抽出し、用法の詳細な状況を分析してみたい。

3.3 用例分析

まず、無作為に抽出した100例を自動詞用法と他動詞用法に分類し、続けて自動詞用法・他動詞用法ごとにさらに詳しい語義の分類を行った。その結果をそれぞれ表8と表9に示す。続く図1は表9をグラフで表したものである。

表8：自動詞／他動詞用法の分類

	<i>anfangen</i>	<i>beginnen</i>
自動詞用法	56	79
他動詞用法	41	21
不明（分詞構文など）	3	0
合計	100	100

表9：語義の分類

	<i>anfangen</i>	<i>beginnen</i>
自 始まる	26	64
始める《mit + 3格》	10	10
話し始める《von/mit + 3格》	2	0
始める（目的語なし）	18	5
他 始める《zu不定詞》	30	13
始める《4格》	11	8
不明（分詞構文など）	3	0
合計	100	100

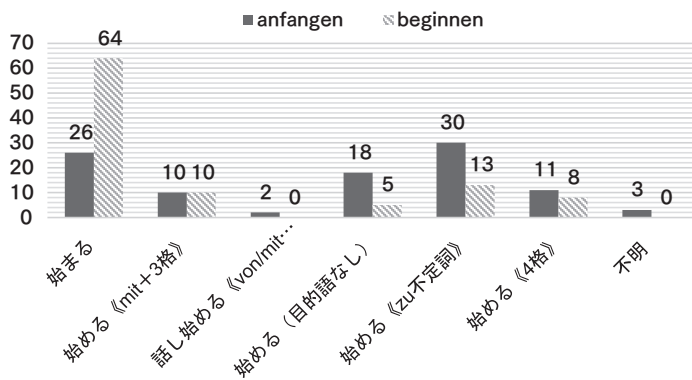


図1：語義ごとの比率

構文に着目すると、anfangenはzu不定詞を伴って「～を始める」という意味で使われやすく、次に自動詞用法「～が始まる」の割合が高い。一方beginnenは、自動詞用法で用いられる割合が圧倒的に高く、その中でも「～が始まる」という使われ方に偏っている。

次に、「時を表す語」を含む用例の数を、自動詞用法と他動詞用法に分けて比較した。

表 10：時を表す語を含む用例数

	<i>anfangen</i>		<i>beginnen</i>	
	総数	時を含む	総数	時を含む
自動詞用法	56	6	80	36
他動詞用法	41	3	20	9
不明	3	0	0	0
合計	100	9	100	45

コロケーション分析の結果（表6）と同様に、時を表す語はanfangenとはあまり結びついておらず、beginnenに偏る傾向が見られる。さらに、beginnenの中でもとりわけ自動詞用法において、時を表す語を含む表現が多く見つかった。

3.3.1 「始まる」

以上の結果を踏まえながら、続いてanfangenとbeginnenの取る名詞を具体的に見ていこう。最初にbeginnenから取り上げる。表11に示すのは、「～が始まる」という自動詞用法のbeginnenが、時を表す語とともに用いられている場合の主語名詞である。全部で36例ある。

表 11：beginnen（～が始まる）の主語、時を表す語との共起あり¹⁶

1 Er (= Anlass «Schule und Eltern im Gespräch»)	4 „A Day of Hope“
2 Der Unterricht	5 Die Sendung
3 ein Open-end-Training der Basketballstars	6 der Pflanzentauschmarkt
	7 Die Sanierung
	8 Die Meisterschaft

¹⁶ 括弧内に代名詞の指示対象を示した。

9	der Termin vor dem Landgericht	23	die Vorstellung
10	Die diesjährige Kulturreihe	24	die Krise
11	der Kurs	25	die Weinlese
12	Die neuen Ausbildungsteile	26	Die parlamentarische Debatte
13	Die Mendelssohn-Tage	27	der Ostermarsch
14	Der traditionelle Frühschoppen	28	Dieser Teil des Anlasses
15	die Vesper	29	die Verhandlungen
16	Die diesjährige Ausgabe	30	alles
17	der zweite Rechtsstreit	31	Unser Ausflugsprogramm
18	Unsere goldenen Zeiten	32	die weltgrößten Branchenmesse
19	die Freibadsaison	33	das (= Das ZDF-Sportstudio)
20	Barney Kessels Karriere	34	die Schule
21	der Produktionsstart	35	die Dreharbeiten
22	Großoffensive	36	die Veranstaltungen

いくつか実際の例を挙げておく。まず、主語名詞には、始まる日時や場所が決まっている広い意味での「イベント」が多く見られる。次の(1)における Pflanzentauschmarkt などが該当する。

(1) Bereits um 10 Uhr **beginnt** der Pflanzentauschmarkt des Bildungs- und Heimatwerkes [...]. (Niederösterreichische Nachrichten, 20.05.2009)

ほかに Meisterschaft, Verhandlungen, Frühschoppen, Weinlese, Ostermarsch, Ausflugsprogramm, さらには ZDF-Sportstudio (テレビ番組) などもここに含めてよいだろう。次の Freibadsaison を含む例では、個別の「イベント」という意味合いは薄れ、特定の行為や出来事が含まれる幅を持った「時間」ないし「期間」が始まることが表されている。

(2) Da im Mai die Freibadsaison **beginnt** und [...] (Rhein-Zeitung, 23.03.2011)

類例としては、Unterricht, Schule, (unsere goldenen) Zeiten などを挙げることができる。これらの例では、これらの「時間・期間」が一連の時間的な流れの中で、ある種の「局面」として「始まる (めぐって来る)」という意味合いで用いられている。

次の表12に示すのは、「～が始まる」という意味で用いられているbeginnenの主語名詞のうち、時を表す語と共起していなかったものである。全部で28例ある。

表12：beginnen（～が始まる）の主語，時を表す語との共起なし

1 Die Schwierigkeiten	14 Was
2 Schützenfest	15 Es
3 das Debakel	16 Operationen
4 die 44 Internationale Funkausstellungen (IFA)	17 Der Angriff
5 das Jubiläumsjahr	18 die Brunftzeit
6 die eigentlichen Kaufverhandlungen	19 die Nachwuchssicherung
7 eine hektische Woche	20 die Diskussion
8 (nicht nur) die Feiern, (sondern auch) die Probleme	21 Die 1960er Jahre
9 Geschichte	22 Es
10 Das Feuer	23 Aktien
11 Der Sonntag	24 Die Emmelschauerer Meisterparty
12 die Wassertage	25 Das Gespräch
13 Der „australische Erfolgstory“	26 der quälende Dialog
	27 Die Vorstellung
	28 die Mühlensaison

Die VorstellungやSchützenfestなど、先の表11に見られたような「イベント」を示す主語名詞が、時を表す語との共起がない場合にも見られる。ただし、Angriffなどは個別の「イベント」とは言いがたい。この場合は、一連の出来事の中のある「局面」が始まるということが表現されている。ほかに、Brunftzeit, (eine hektische) Woche, die 1960er Jahreなど、「時間」ないし「期間」を表す語がここでも同様に確認できる。なお、表11には見られなかった種類の主語名詞として次のFeuerが挙げられる。出来事の始まった（生じた）場所を表す語句とともに用いられている。

- (3) Das Feuer hat laut Angaben der Polizei in einem Anbau des Hauses **begonnen** und [...] (Rhein-Zeitung, 12.11.2012)

では次に anfangen の用例を見ていこう。次の表13は anfangen (～が始まる) の取る主語名詞の一覧である。全部で26例ある。

表13：anfangen (～が始まる) の主語

1 Das	14 die Arbeit
2 es	15 es
3 die Herausforderung	16 der April
4 Das Problem	17 Meine Oper
5 die Band	18 das (= Infrastrukturverbesserung zu stützen)
6 Diese Meinungsbildung	19 die Schule
7 Exemplar	20 Es
8 Es	21 alles
9 Das (= in diesem Bereich noch Erhebliches zu leisten)	22 Sexismus
10 Zirkuskarriere	23 das Kino
11 alles	24 Es (zu regnen)
12 das	25 Es (zu schütten)
13 der erste Jugendfeuerwehrwart Werner Hoff	26 Wörter

まず、代名詞類が beginnen よりも多く見られる。非人称の es が regnen や schütten とともに用いられている例があるが、beginnen では、少なくとも 100 件というごく少数の無作為抽出では、regnen や schütten はヒットしなかった（前節でのコロケーション調査でも regnen は anfangen とより強い共起性を示している。表4を参照）。ただし、Schule や April など、一定の「時間」や「期間」を表す語とも共起しており、この点では beginnen との重複が確認できる。

(4) Heute fängt die Schule wieder an. (Rhein-Zeitung, 08.09.2014)

しかし、それに加えて、次の Herausforderung や Sexismus の例のように、出来事や状態が「新たに起こる」ことに焦点が置かれているものも存在している。先のコロケーション分析で neu や von vorn などの副詞類と高い共起性を示していたことを参照されたい。

(5) Hier **fange** die Herausforderung an die Politik zur Gestaltung erst **an**.
(Mannheimer Morgen, 15.01.2005)

(6) Flirten oder Grapschen: Wo **fängt** Sexismus **an**? (Spiegel-Online, 09.11.2017)

3.3.2 「始める」(前置詞目的語)

次に「～を始める《mit +3格》」と「～について話し始める《von/mit +3格》」という用法における前置詞目的語の傾向を比較する。

表14 : anfangen (～を始める) の前置詞目的語

-
- | | |
|----|--|
| 1 | damit (= Eishockey) |
| 2 | mit Heroin |
| 3 | damit |
| 4 | damit ₇ |
| 5 | Womit |
| 6 | mit einer Riesenrolle |
| 7 | mit einer E-Junged |
| 8 | mit einem ‚abgehörten‘ Paßwort |
| 9 | mit roten Teppichen und Händeschütteln |
| 10 | mit den Umbauten |
-

表15 : beginnen (～を始める) の前置詞目的語

-
- | | |
|----|--|
| 1 | mit der Ausgabe der ersten neuen Geldscheine |
| 2 | mit der Strassenmode |
| 3 | mit der Erarbeitung |
| 4 | mit den Erlebnistag |
| 5 | mit solchen Projekt |
| 6 | mit dem Punktspielbetrieb |
| 7 | damit (= Computervisualistik) |
| 8 | mit ihrer Arbeit |
| 9 | mit dem Abbruch der Sonesson-Hallen |
| 10 | mit diesem fröhlichen Fest |
-

表 16 : anfangen (～について話し始める) の前置詞目的語

- | | |
|---|-------------------------|
| 1 | von den Reifen |
| 2 | von »Hilfsbereitschaft« |

特筆すべき点として、anfangenでは、次の例のように「取りかかる、着手する」というニュアンスの強い用例が目につく。

- (7) Womit wir **anfangen**, ist dieses Mal relativ egal. Ich empfehle aber, zuerst die Vanillesoße zuzubereiten, weil [...] (Berliner Morgenpost, 12.04.2009)
- (8) „Wenn wir den Trainer haben, **fangen** wir sofort wieder mit einer E-Jugend an“, sagt Udo Konrath. (Rhein-Zeitung 06.12.1997)

なお、「～について話し始める《von/mit + 3格》」という用法はanfangenにしは見られない。ドイツ語辞典では口語的とされている点についてはすでに見たとおりである(2.1節)。

3.3.3 「始める」(目的語なし)

anfangenとbeginnenは目的語を取らずに、「誰かが(何かを)始める」という意味で用いられることがある。目的語を取らないと言っても、実際には副詞など他の文成分を伴うことも多い。次の表17は、目的語を取らないが、「始める」という意味で用いられているanfangenとbeginnenが、主語以外のどのような語とともに用いられているかを示したものである。

表 17 : 目的語を取らないanfangen/beginnen (始める) の共起語

	<i>anfangen</i>	<i>beginnen</i>
von vorn(e)	6	1
場所	4	0
時	3	0
場所と時	0	2
様態	2	1
主語のみ	3	1
合計	18	5

anfangenを見ると, 3.2節で行ったコロケーション分析でも高い共起度を見せた von vorn(e) を含む用例が最も多い結果となった。しかし, beginnenでも, 頻度は低いものの同じ結びつきは認められる (次のb.文)。

- (9) a. Morgen verkleide ich mich auch. Ich **fang** noch mal von vorne **an**. (Die Tageszeitung, 07.03.2002)
 b. Zu Hause liegt auch ein Koran, er **begann** erst von vorn, bis ihm jemand sagte, dass die Suren hinten kürzer und verständlicher seien. (Der Spiegel, 06.11.2006)

3.3.4 「始める」(4格目的語)

続いて anfangen と beginnen の取る 4 格目的語を見てみよう。

表 18 : anfangen/beginnen (～を始める) の 4 格目的語

<i>anfangen</i>	<i>beginnen</i>
1 Was	1 Vermittlungsmission
2 was	2 sein Konzert
3 was	3 seine Lesung
4 einen „Kleinkrieg“	4 achtes Arbeitsjahr
5 nichts mehr	5 ein Leben
6 diesen Streit	6 Kampf
7 was	7 den Urlaub
8 etwas	8 seine Rede
9 das Spinnen	
10 die Wahrheit	
11 nichts	

beginnen における 4 格目的語は, 自動詞用法と同様に, Urlaub や Konzert などの「イベント」や「期間」に偏る傾向が見られる。一方 anfangen は, 「始める」というよりもむしろ「する, 行う」という意味合いの強い口語的用法に偏りを見せる。

- (10) Ein Bagger ist gestohlen worden. Warum nur? Was soll man mit einem Bagger **anfangen**? (Rhein-Zeitung, 09.08.2006)

- (11) Zuerst war ich ratlos, was ich mit dem blöden Kleid **anfangen** sollte.
(Weltwoche, 05.01.2012)

3.3.5 「始める」(zu不定詞)

最後に anfangen, beginnen と結びつく zu 不定詞について見てみる。

表 19 : anfangen (～を始める) と結びつく zu 不定詞句

1 zu rauchen	16 sein Gegenüber einzuordnen
2 Spaß zu machen	17 das Problem zu erkennen
3 zu weinen	18 langsam Luft abzulassen
4 ins Spiel zu bringen	19 Villa um Villa zu kaufen
5 sich um Sie zu drehen	20 Kunstkritiken zu veröffentlichen
6 zu trainieren	21 zu trampeln
7 de Städte zu nennen	22 auszuputzen
8 die Arbeitsbedingungen zu überprüfen	23 sich gegenseitig zu beschuldigen
9 mit Nahrungsmitteln zu zocken	24 nach etwas zu suchen
10 zu bauen	25 sich zu ärgern
11 zu weinen	26 zu „socializen“
12 zu drehen	27 gemeinsam Filme zu drehen
13 zu greifen	28 Politik zu machen
14 zu brüllen	29 Gewässer zugänglich zu machen
15 mitzuspielen	30 zu schreien

表 20 : beginnen (～を始める) と結びつく zu 不定詞句

1 zu arbeiten
2 zu erzählen
3 zu träumen
4 sie zu verprügeln
5 sie zu würgen
6 sie zu pflegen
7 zu erklären
8 zu recherchieren
9 das Wasser zu chloren
10 de Güter zu verwalten
11 zu blühen
12 Strafstöße zu trainieren
13 zu leuchten

これらの事例を見る限り、anfangenとbeginnenの選択するzu不定詞に決定的な相違を認めることはできないが、頻度については、コロケーション分析の際に確認した通り（3.2節）、anfangenの方がbeginnenに比して明らかに高い。

3.4 本節のまとめ

ここまでの結果をまとめておく。まず頻度調査において、anfangenは話し言葉、beginnenは書き言葉の傾向を見せる。しかしその傾向は絶対的なものではなく、新聞でもanfangenが用いられ、台詞や会話でもbeginnenが用いられる。しかしながら、コロケーション分析と100例を抽出しての用例調査の結果をあわせて考えると、anfangenとbeginnenはその用法や結びつく語句に明確な偏りがあることが指摘できる。

まずanfangenは、zu不定詞を目的語に取りやすい傾向がある。これはこの動詞が本来「取りかかる、着手する」という意味をその語義変化の出発点に持っており、今日でもなおその語義を強く保っているからであると考えられる。zu不定詞を取らない他の用法、例えばmit前置詞句や4格目的語とともに用いる場合であっても、やはり「着手する」という意味合いで用いられることは多い。コロケーションという観点から、anfangenは「新たに、最初から」などを表す副詞類（例えばneuやvon vornなど）と結びつきやすい。ここでもanfangenの持つ「開始する、着手する」というニュアンスとの関連性を指摘することができる。しかしながら、anfangenは意図性が関与しない状況にまで十分に意味範囲を広げていることを抑えておくことも重要である。例えば「泣き始める」「雨が降り始める」などに用いられるzu weinen, zu regnenはanfangenとの共起度が極めて高く、頻度においても上位に位置する。加えて、「～が始まる」という自動詞用法においても、ある出来事・事象が「新たに起こる」という表現が認められる。

一方beginnenは、最も典型的には「特定の日時、場所で行われるイベントが始まる」という状況で用いられる。本稿の調査では、「～が始まる」という自動詞用法が最も高頻度で確認できた。さらに「イベント」以外でも、「学校」や「授業」などある一定の「期間」（局面）が始まるという用法も一般的である。anfangenと同じく、自動詞用法、他動詞用法とも十分にその用法の広がり、従ってanfangenとの重なりを認めることができる。しいて言えば、anfangenが「取りかかる、着手する」という語義からさらに進んで、単に「する、行う」というくらいの意味で用いられることもあるのに対して、beginnenにおいては、そ

のような事例は今回の抽出調査では確認できていない。

4. おわりに

以上、本稿では、明瞭な相違が認められず、従って容易に置き換えができるような類義語の例として *anfangen* と *beginnen* を取り上げ、コーパスを用いた類義語研究の有効性を示した。これら二つの語は、その用法もほぼ同じで、容易に交換が可能な類義語である。本稿の最初に概観したとおり、既存の辞書ではこれらの語の意味の違いや用法の違いについて十分な情報は得られない。従来 の作例によるアプローチでは、両者の用法の違いを把握することは難しかった と言える。ほぼすべての場合に置き換え可能なのだから当然である。そのような 状況で参考になるのが、頻度とコロケーションの情報である。どのような構文で、 どのような語句とともに用いられることが多いのかという情報が得られるならば、 学習者はその語の語義のみならず、用法についても直感的に習得できることなる。 当然のことであるが、その語の意味を知っているということは、その語を使うことができる ということにほかならない。

今回行ったのは、基本的には、頻度分析とコロケーション分析、そして無作為抽出による用例分析という3種類の手法の組み合わせである。類義語研究における語結合(コロケーション)の重要性を指摘する声は以前からあったが、それを実践に移すことができるようになるには、大規模コーパスの登場と容易に扱える研究支援ツールの登場を待つ必要があった。今回行った調査は、パーソナルコンピュータが使えれば、誰にでも可能な内容のものである。決して一部の人間だけが可能な種類のものではない。今後の調査の広がり期待したい。

独和辞典・和独辞典

『アクセス独和辞典』第3版. 三修社. 2010.

『アクセス和独辞典』三修社. 2012.

『アポロン独和辞典』第3版. 同学社. 2010.

『郁文堂和独辞典』第4版. 郁文堂. 2002.

『クラウン独和辞典』第5版. 三省堂. 2014.

『新コンサイス和独辞典』三省堂. 2003.

『マイスター独和辞典』大修館書店. 1992.

参考文献

- Beaton, K. B. (1996): *A Practical Dictionary of German Usage*. Oxford: Oxford University Press.
- Duden (2014): *Das Herkunftswörterbuch. Etymologie der deutschen Sprache*. 5. Aufl. Berlin: Dudenverlag.
- Duden (2019): *Deutsches Universalwörterbuch*. 9. Aufl. Berlin: Dudenverlag.
- Goethe-Institut (2011): *Goethe-Zertifikat A1: Start Deutsch 1. Prüfungszeile - Testbeschreibung*. 2. Aufl. München: Goethe-Institut.
- Goethe-Institut (2013): *Goethe-Zertifikat A1: Fit in Deutsch 1. Prüfungszeile - Testbeschreibung*. 3. Aufl. München: Goethe-Institut.
- Goethe-Institut (2016): *Goethe-Zertifikat A2: Deutschprüfung für Jugendliche und Erwachsene. Wortliste*. München: Goethe-Institut.
- 井口靖／恒川元行／黒田廉／成田克史／カン・ミンギョン (2018): 「ドイツ語におけるコロケーション分析とその辞典記述の問題点」『三重大学教養教育機構研究紀要』3, 51-67.
- Jones, Randall L./Tschirner, Erwin (2006): *A Frequency Dictionary of German*. London: Routledge.
- 木藤冬樹 (1978): 「Kollokationによる類義語分析へのアプローチ」『ドイツ文学』60, 25-38.
- Müller, Wolfgang (1990): *Schülerduden. Die richtige Wortwahl*. 2. Aufl. Mannheim: Dudenverlag.
- 中條宗助 (1995): 『ドイツ語類語辞典』第2版. 三修社.
- Paul, Hermann (2002): *Deutsches Wörterbuch*. 10. Aufl. Tübingen: Niemeyer.